

記念講演

「秦 佐八郎の生涯」

学校法人 北里研究所 北里柴三郎記念室から、医学博士 森 孝之先生をお迎えし、秦佐八郎博士の生涯とその功績について記念講演会を開催します。

6/6(金) 14:00～14:45

6/7(土) 14:00～14:45

スタディツアー 定員20名

展示品について解説します

学校法人 北里研究所 北里柴三郎記念室、岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンターの担当者が、展示品などについてわかりやすく解説します。

6/5(木) 15:00～15:45

6/6(金) 15:00～15:45

6/7(土) 11:00～11:45

15:00～15:45



映画上映

「魔法の弾丸 エールリッヒ博士の生涯」

秦 佐八郎博士とともにサルバルサンを発見したエールリッヒ博士の生涯を描き、その年最高の傑作の一つと謳われた名画を日本語字幕版*で上映します。

*字幕は秦佐八郎博士記念展示会実行委員会で作成挿入しました。

6/5(木) 16:00～17:45

6/6(金) 12:00～13:45

16:00～17:45

6/7(土) 12:00～13:45

16:00～17:45

6/8(日) 12:00～13:45

14:00～15:45

より詳しく秦佐八郎博士・北里柴三郎博士について知りたい方は是非足をお運びください。



秦記念館

〒698-0203 島根県美濃郡美都町大字都茂

TEL 0856-52-2415

秦博士の一生を物語る、明治、大正、昭和3代にわたる多くの写真、手紙、参考図書をはじめ遺品類など総点数 200 点に及ぶ多数の資料と等身大の肖像画、年表などを配置して、その人柄、功績等をより分かり易いように展示してあります。

http://www.iwami.or.jp/masudasi/top/mito_hp/hatakinennkanngaiyou.htm



北里柴三郎記念室

〒108-8641 東京都港区白金五丁目9番1号 学校法人北里研究所 北里本館1階

TEL 03-5791-6103

北里柴三郎の生い立ちからその研究業績等を、資料と写真パネルによって詳しく紹介しています。また他にも、北里研究所の設立から現在までの あゆみや北里柴三郎の交友関係、門下生等の様々な資料を展示してあります。

<http://www.kitasato.ac.jp/kinen-shitsu/>

秦佐八郎博士サルバルサン探索99年記念展示会実行委員会 (岡山大学医学部泌尿器科)

FLOOR GUIDE

世紀の医学者、秦佐八郎博士にはじまる
岡山大学医学部の挑戦

平成20年 6月5日(木)～8日(日)

秦 佐八郎博士

サルバルサン探索99年記念展

魔法の弾丸 99年の歩み

サルバルサン(エールリッヒ・秦 606号)は
病原菌のみを狙い撃つ魔法の弾丸による
化学療法の歴史を拓きました。



- スタディツアー
- 未来医療コーナー
- 記念講演「秦佐八郎博士の生涯」
- 映画「魔法の弾丸 エールリッヒ博士の生涯」上映

主催／秦佐八郎博士サルバルサン探索99年記念展示会実行委員会 (岡山大学医学部泌尿器科)

協力／学校法人 北里研究所・秦記念館・勸福武教育文化振興財団・公設国際貢献大学校・岡山大学・岡山山医学振興会・鶴翔会 (岡山医学同窓会)
後援／岡山県・岡山市・岡山市教育委員会・益田市・山陽新聞社・NHK岡山放送局・日本学術会議・社日本化学会・社日本薬学会・岡山県医師会

医学の世界へ
出かけよう!

岡山大学では、近未来のがん医療の実現に向け、国家的な事業に取り組んでいます。

岡山大学では、現在、がんを早く見つけて優しく治す近未来のがん医療「ナノバイオ標的医療」の実現に向けて研究を進めています。この研究を中心になって進めている岡山大学医学部の前身は岡山第3高等学校医学部という、東京帝国大学医学部に次いで開校した伝統ある医学部です。その卒業生であった秦佐八郎博士は、ドイツのエールリッヒ博士とともに、当時治療するくすりのなかった「梅毒」の特効薬「サルバルサン（救うという意味が込められている）606号」の開発に成功し、世界中にその名を知られています。このくすりは、ヒトには影響せず、病気の原因となる細菌だけを殺して病気を治療するという考え方で開発された世界で最初の化学療法剤で、「魔法の弾丸」と呼ばれて多くの尊い人命を救い、映画にもなっています。この展示会では、秦記念館（島根県美都町）と学校法人 北里研究所 北里柴三郎記念室（東京都港区）の全面的な支援を受け、岡山大学医学部の生んだ秦佐八郎博士と、秦博士の恩師であり日本近代医学の父として知られる北里柴三郎博士にゆかりの史料や品々を一堂に展示するとともに、感染症・化学療法の歴史、秦博士の流れを汲んで100年目の魔法の弾丸の創出を目指している「岡山大学ナノバイオ標的医療イノベーションセンター」の取り組みなどを紹介します。

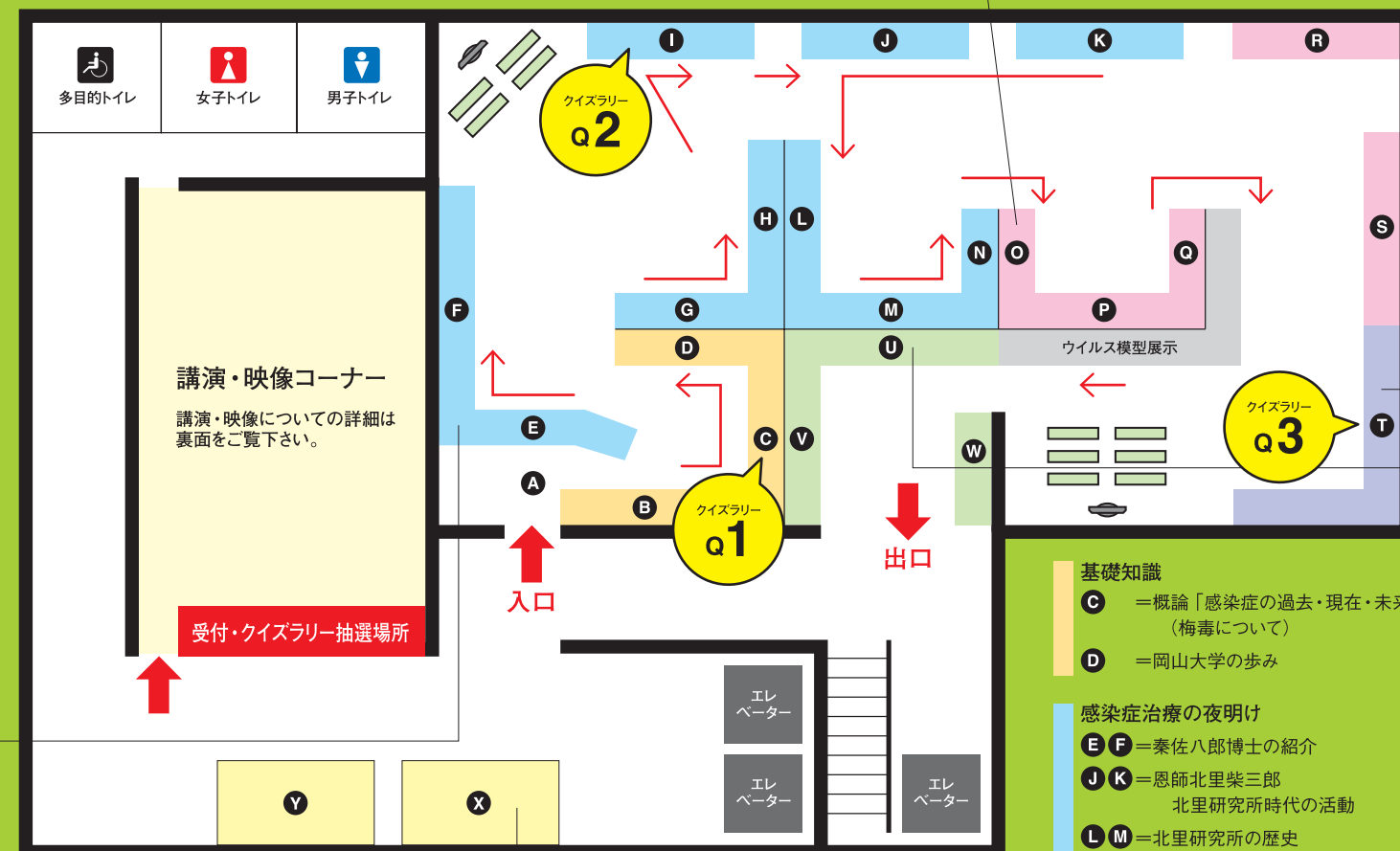
Quiz rally クイズラリーを開催!

どなたでも参加できます。会場に設置された3問のクイズに答えていただき正解された方の中から抽選で素敵な賞品をプレゼントいたします。詳しくは受付でお聞きください。



E～N 感染症治療の夜明け

秦佐八郎博士の生い立ちから北里柴三郎との出会い。ドイツ留学での、梅毒の特効薬「サルバルサン」創製や研究業績を紹介。その後の伝染病研究所・北里研究所時代の貴重な資料展示や学校法人 北里研究所の紹介など。



O～S 化学療法の発展

感染症治療の歴史・進歩からがんの治療やくすりのできるまで、抗体医療などについて、パネルでわかりやすく紹介。化学療法の現在までの流れを解説。

T 100年目の魔法の弾丸

がんを早く見つけて優しく治す、近未来のがん医療「ナノバイオ標的医療」実現に向けた取り組みの紹介。

U 体験コーナー

このコーナーでは、実際に使われている医療の機器に直接触れることで、医療を模擬体験することができます。

●聴診：胸の音を聴いてみよう

胸の音を聴くこと（聴診）によって、心臓や肺の状態を知ることができます。聴診は、ハイテクの診療機器に依存することなく、また患者さまに大きな負担をかけることなく正確な臨床診断を行うために欠かせない診療法のひとつです。会場では専用の人体模型の心音を聴いてみましょう。



●内視鏡検査

内視鏡とは、外から見えない身体の中を先端にレンズのついた管で観察し、場合によっては処置・治療をする医療機器です。胃・大腸・膀胱・関節用などいろいろな種類があります。会場では実際に医療の現場で使われている胃カメラを、医師トレーニング用の専用模型（人形）に挿入することができます。



●腹腔鏡手術

腹腔鏡とは、お腹の中を直接観察するための直径1cmほどの内視鏡です。腹腔鏡手術は、お腹を大きく切る必要がなく、1cm程の穴を数箇所開け、1つの穴から腹腔鏡を入れてお腹の中をテレビモニターに映して観察し、別の穴から鉗子（かんし）と呼ばれるマジックハンドのような機器を挿入して手術を行います。実際にお医者さんも技術習得に使うシミュレーションBOXと簡易鉗子を使って、輪ゴムの移動・ビーズ玉の移動・リングの移動などにチャレンジしてみてください。



●超音波検査

人の耳が聞こえる音は一般に20Hz～20,000Hzと言われていますが、それ以上高い音を超音波といいます。一般に超音波検査では、2MHz～10MHzの超音波を体に当てて、跳ね返ってきた音を画像化します。会場では、実際にプローブ（超音波を出す器具）を専用模型に当てて出てくる画像を確認してみてください。



基礎知識

- C＝概論「感染症の過去・現在・未来」（梅毒について）
- D＝岡山大学の歩み

感染症治療の夜明け

- E F＝秦佐八郎博士の紹介
- J K＝恩師北里柴三郎 北里研究所時代の活動
- L M＝北里研究所の歴史
- N＝現在の研究所、世界的貢献

化学療法の発展

- O＝梅毒について
- P＝感染症について
- Q＝抗体の発見・応用
- R＝くすりについて
- S＝がんについて

100年目の魔法の弾丸

- T＝ICONT（ナノバイオ標的医療イノベーションセンター）の取り組み
- U＝体験コーナー

秦佐八郎博士って、こんな人。

秦博士は、明治6年（1873年）3月23日、石見国美濃郡都茂村（つもむら）（今の島根県美都町）で、代々庄屋であった山根家の道恭・ヒデの8男として生まれました。小学校卒業の頃、その地で11代にわたってお医者さんだった親戚の秦 徳太という方の一人息子さんが早くに亡くなられ、秦家に養子として迎えられました。秦家の養子になれば岡山へ出て勉強ができるとお父さんとお母さんにすすめられたことも養子に入られた理由の一つだったと言われています。この勉強したいという願いがかない、明治24年（1891年）に岡山第3高等学校医学部（岡山大学医学部の前身）に入学して本格的に医学の道を進むことになりました。あまりによく勉強ができるので、教授の先生方は秦博士のことを「恐るべき生徒」と呼んでいたそうです。明治28年（1895年）、秦家の長女のチヨさんと結婚、11月に医学部を卒業。卒業の時には、岡山第3高等学校医学部から岡山第3高等学校医学部に名前が変わっていました。医学部卒業後すぐに一年志願兵として東京近衛第一連隊入隊し、軍務を終えて岡山県立病院の助手になり、井上善次郎という先生に内科学を、荒木寅三郎という先生に医化学を学ばれました。この荒木寅三郎という先生は、後に京都大学の総長になられた先生ですが、この荒木先生の推薦で明治31年（1898年）に北里柴三郎博士が福沢諭吉の支援を受けて設立された伝染病研究所に入られたのです。有名な野口英世博士と同期の入所でした。これが、世界で初めて化学療法の道を拓いた秦博士と近代医学の父と呼ばれた北里柴三郎博士との出会いでしたが、この後の物語は、どうぞ展示会の中でお確かめください。

1983	明治 6 年 3 月 23 日	石見国美濃郡都茂村（現美都町）山根道恭・ヒデの8男として出生
1887	明治 20 年	14 歳 同村医家 秦徳太・ツタの養子となる
1891	明治 24 年	18 歳 岡山第三高等学校医学部に入学
1895	明治 28 年	22 歳 秦徳太の長女チヨと結婚、岡山第三高等学校医学部を卒業
1898	明治 31 年	25 歳 大日本私立衛生会・伝染病研究所に入所、北里柴三郎所長に師事する
1904	明治 37 年	31 歳 日露戦争従軍・南満州（現中国）各地に赴く
1910	明治 43 年	37 歳 ドイツ国立実験治療研究所でエールリッヒ博士を扶けてサルバルサンを発見 ドイツ学会に発表
1911	明治 44 年	38 歳 サルバルサン発見の功績により勲5等双光旭日章を受ける
1915	大正 4 年	42 歳 国産サルバルサン創製に成功
1926	大正 15 年	53 歳 ドイツ帝国自然科学院会員に推される
1928	昭和 3 年	55 歳 ドイツで開催された国際連盟主催のサルバルサン標準国際会議に出席
1931	昭和 6 年	58 歳 恩師北里柴三郎博士死去 6月 北里研究所副所長に就任
1933	昭和 8 年	60 歳 帝国学士院会員に勅選され終身勲任官待遇を受ける
1935	昭和 10 年	62 歳 財団法人保生会創設に参画、常務理事長となる
1938	昭和 13 年	65 歳 慶応大学付属病院入院 11月22日 同病院で死去

< 秦記念館のホームページから抜粋 >

X Y 物販コーナー

- 学校法人 北里研究所の書籍などの販売
- 秦記念館オリジナルグッズ、美都町物産などの販売